1993年9月6日　第三種郵便物認可

自治ひょうご

1707号

2026. 11. 15

月2回（1日、15日）発行　定価10円
購読料は組合費に含まれる。
自治労兵庫県本部
書記長／北池 宏光・編集人／竿尾 敦子

発行　全日本自治団体労働組合　兵庫県本部
〒650-0004 神戸市中央区中山手通3-4-8 大東ビル TEL078-392-0820 FAX 078-392-0920
http://www.jichiro-hyogo.jp/　E-mail:jhyogo@jichiro-hyogo.jp

当面の日程

17日　県本部人権研修会（県本部／ウェブ）
20日　確定闘争統一行動日
5日　県本部囲碁将棋大会（ひょうご共済会館）

助言強化を振興課へ要請

給与水準均衡と処遇改善へむけて

兵庫県本部は10月28日に県庁西館会議室において、2026賃金確定闘争にむけた県市町振興課との協議を行った。

県本部と県市町振興課との協議は、毎年春闘期と賃金確定期の2回実施している。県市町振興課は、県内市町の職員の勤務労働条件について助言を行う立場にあり、その助言が各市町の労使交渉や合意事項に影響を及ぼすことから、県本部は、各市町の自主的な労使交渉を尊重し、労使合意事項に不当に介入しないことを基本に、未払い賃金や安全衛生委員会の未開催などの法令違反や不適切な取り扱いについて、その是正にむけた適切な助言を求めてきた。


単組交渉のため県の考えを引き出す交渉団

今回の協議でも、こうした基本姿勢を改めて確認するとともに、勤務労働条件の改善にむけた課題について意見を交わした。

特に、ラスパイレス指数が低い自治体に対しては、国との給与水準の均衡を図る観点からの賃金水準の引き上げや、今年の人事院勧告で出された7日の無給休暇制度の適切な運用にむけた積極的な助言を求めた。

また、会計年度任用職員についても、常勤職員との均衡を踏まえ、賃金改定の4月遡及や新たに支給可能となった住居手当・扶養手当の取り扱いなど、賃金・諸手当や休暇制度などの処遇改善についての助言を進めるよう要請した。

県本部は、各市町における労使自治の尊重と、法令に基づく適正な勤務労働条件の確保を基本に、引き続き県市町振興課への働きかけを強めるとともに、各単組の賃金確定闘争を支援していく。

全世代の賃金・労働条件の改善へ

2026自治体確定闘争に結集しよう

2026自治体確定闘争では、すべての組合員の生活を守り、賃金・労働条件の改善をめざして取り組む。

今年の人事院勧告では月例給が平均3・51%、一時金が0・05月引き上げられた。また、中堅層以上の職員や再任用職員の給与改善も盛り込まれている。

また、神戸市は9月16日に平均3・59%、兵庫県は10月14日に3・3%、県・神戸とも一時金0・05月引き上げの勧告を行っている。

県本部では、確定闘争の重点課題として、①給与の引き上げと年内差額支給、②初任給水準の引き上げ、③38歳4級到達にむけた在級期間の短縮、④中途採用者の賃金改善、⑤再任用職員の一時金・級格付け改善、の5項目を掲げている。

特に、中堅層の昇格停滞や賃金の伸び悩みを解消するとともに、民間経験を持つ中途採用者の前歴換算や昇給・昇格の改善を求める。また、再任用職員についても、職務・職責に見合った処遇と一時金の支給月数改善をめざす。

各単組では、賃金実態を把握・分析し、地域や職場の実情に応じた要求を確立し、交渉に臨むことが重要である。

県本部は、11月12日と19日を交渉のヤマ場とし、「統一要求―統一交渉―統一妥結」を基本に、全単組が結集し、要求実現にむけて取り組みを進めよう。



ライブ集計を使ったセッション

ふくい自治研

スマホで参加型討論を実施

第41回地方自治研究全国集会が、10月2~3日、福井県福井市で開催され、全国から約1700人が参加した。

1日目は、「フェニックスプラザ」で全体集会があり、自治労本部・石上千博委員長、福井県本部・大嶋智委員長のあいさつ、地方自治研究賞受賞作品の発表、表彰、集会の基調提起が行われた。

兵庫からは伊丹市職員労働組合のレポートならびに論文が提出された。

また、午後からは自治研セッションとして①「自治研はもういらない!?」②「『わたしの自治研』はどうはじまるのか」③「自治研は『わたし』をどうかえるのか」と題して、スマートフォンによる参加者の声のライブ集計なども活用しながら問題提起が行われた。

2日目は、6つの分科会に分かれて、各テーマに沿って議論が行われるとともに、福井県本部による「組合フェス」なども催された。

兵庫からは、県本部と7単組から合計13人、自治研センターから4人が参加し、開催前日に開催された福井県本部主催の歓迎レセプションや、1日目終了後の自治総研・自治研センター交流会には、それぞれ関係者が出席した。

尾西委員長 首長懇談の日程

田村 克也・三田市長
（9月1日）
清元 秀泰・姫路市長
（9月30日）
山名　宗悟・神河町長
（10月8日）
高島　崚輔・芦屋市長
（10月9日）
中田 慎也・伊丹市長
（10月20日）
岡本 信司・猪名川町長
（10月23日）



詳細は、県本部ホームページに掲載しています



いまいち座

確定闘争、団結‼



iNaki

しこう

暑すぎた日々が過ぎたと思ったら、急に肌寒さが襲ってきました。朝晩の寒暖差が激しい日常の中で、くれぐれも体調管理には気をつけてください。特に季節や気候の変わり目は体調が崩れやすいので、バランスの良い食事と十分な睡眠を心がけて、実践していってください。それと併せて休養を取ることが、とても大切です。皆さんは自分が休暇を取りたいと思ったときに、年次有給休暇を取得できていますか。仕事量と比べて人員配置数が足りていない等で、休暇を取得しにくい実態になっていないか、キッチリとチェックして、仕事量に見合った人員を配置させるために取り組まなければなりません。過重労働やストレスに襲われる前に、現場で働く組合員の声を集約して、要求し交渉を重ねて改善に向けて、全員で取り組んで「みんなの力」で、働きやすい職場を作り上げて行きましょう。

第18回 黒豆収穫祭

丹波篠山〝幻の枝豆〟大豊作

マイカー共済見積もりキャンペーンも好評

10月24日、県本部は黒豆収穫祭を丹波篠山市内で開催し、16単組63組１６０人が参加した。

毎年、職場の仲間同士や家族連れの組合員で賑わうこのイベントも、今年で18回目を迎える。

丹波篠山の黒大豆「丹波黒」の枝豆は収穫期間が完熟前2~3週間だけ。粒が大きく、甘み・コクが強いのが特長だ。希少性の高さから「幻の枝豆」とも呼ばれており、今年は特に豊作だった。

収穫祭当日、畑からは鈴なりに実る枝豆に歓声も聞こえ、参加者はシートを広げて豆もぎを楽しんだ。

子ども向け「お菓子のつかみ取り」では、子ども達がたくさんのお菓子に嬉しそうな笑顔を見せていた。

地元産コシヒカリや黒豆味噌が当たるお楽しみ抽選会や、特別企画「じちろう共済マイカー見積もりキャンペーン」も開催した。

自治労組合員だから加入できるじちろうマイカー共済は、団体割引が25%、無事故割引は最大65%適用される。一瞬の交通事故が失職につながりかねない公務員を守るため、起訴前の弁護士費用を補償する独自の特約が全契約に付帯されていることで、安心を提供している。

見積もりをした約8割が選択する実績からも「自治労組合員の特権」を実感しやすい制度で、今回のキャンペーンでは13人が見積もりにむけて手続きを行った。

黒豆収穫祭は年々参加者が増えており、今年は兵庫県職労、神戸市従、丹波篠山市職労、丹波市職労から動員協力を得て開催した。

今後、組合員むけの単組イベントとしての活用も期待される。


秋空の下、豆もぎを楽しむ参加者


鈴なりに実る黒枝豆


仲間と参加し交流

青年層の状況改善にむけ要求書づくりを！

青年部総会

青年部は9月26日、ひょうご共済会館で第30回定期総会を開催し、代議員、常任委員あわせて27単組35人が参加した。

今村龍乃介青年部長は、あいさつで業務量増加やニーズの多様化で人員が不足する状況をあげ、「公務サービスへの使命感で働いているのが実態ではないか。現場で最前線に立つ青年労働者の現状を改善する要求づくりが必要だ」と述べた。

県本部の戎剛副委員長は、あいさつでマルセ太郎さんの「学習は人に勝つためにするのではない。弱い人の立場に立って考え、弱い人のためにたたかえるためだ」という言葉を紹介し、組合活動の大切さを強調した。

経過報告は、「学習」「交流」「新規事業」の各部の取り組みを紹介した。

方針提案では、地域別交流会を通じて職場実態交流を行うこと、当面する２０２６確定闘争で青年女性決起集会を開催し、賃上げに取り組むこと等を藤原峻也書記長が提起した。質疑で経費節減について意見が出され、執行部は「会議は原則リモートとし、旅費を削減している。一方、学習と交流など大切にするところは、しっかり取り組みたい」と答弁した。

総括・方針案は賛成多数で承認された。



あいさつする青年部役員

町職連協総会

前歴換算制度を改正

在職者も前歴を適正に反映

県本部町職員連絡協議会は９月26日に福崎町文化センターにおいて第55回定期総会を開催した。

主催者を代表し石田義浩議長は、「各町においても、人材不足が続き、業務量の増加や若手育成などの負担増が現場で生じている。人手不足等の影響が懸念される中、活動継続に向けて組合員の声を丁寧に拾い、より良い労働環境の実現へ一致団結して取り組もう」とあいさつした。


団結ガンバローで締めくくった

議事に入り、2026年活動報告、2027年活動方針案及び当面の闘争方針案、町職連協統一要求書案を執行部から提案し、それぞれ全体の拍手で承認された。

取り組み報告では、播磨町職・下岩武史代議員から「中途採用者が増加している中で、これまで『八掛け』の運用により、適正処遇と人材確保の観点から制度改正を当局へ要請し協議してきた。当局も人材確保の重要性を理解し、中途採用者の前歴換算制度の改正を認め、在職者も前歴評価が適正に反映されることとなった。改正前期間の給与差額の遡及支給はなく、10月以降の給与に反映する内容で妥結。引き続き、処遇改善と働きやすい職場環境の実現にむけ、当局との協議を継続していく」と報告を受けた。

仕事も人生も大切に

心身のケアをテーマに交流

女性部総会

９月26日、ひょうご共済会館で第30回定期総会を開催し、24単組38人が参加した。澤田典子女性部長は開会あいさつで、若い世代の離職の背景には、賃金だけでなく働き方の問題もあると指摘し、「仕事も大切だが、自分の人生も大切。一人で抱え込まず、みんなで声を上げていこう」と呼びかけた。続いて、戎副委員長、Ｉ(アイ)女性会議の小城智子さんから激励のあいさつを受け、経過報告、運動方針、当面の闘争方針が賛成多数で承認された。

総会後は「心と身体のセルフケア」をテーマに交流会を開催し、市町や職種の異なる仲間同士で意見交換を行った。推し活やライブ、１人で過ごす時間など、お互いのリフレッシュ方法を紹介し、工夫を共有することで自身の疲れや心の状態を見つめ直す機会となった。

最後に、澤田部長は、自分自身を大切にすることの重要性を強調し、リフレッシュできるだけの賃金を得ることは当然の権利であり、その視点を組合活動にも取り入れてほしいと訴えた。また、「ありがとう」の一言が心を軽くすることに触れ、認め合うことで前向きになれる関係を築き、安心して働き続けられる職場にするための組合活動につなげていこうと呼びかけた。


推し活グループトークで交流した

こくみん共済 coop NEWS 5125V039

じちろうセット共済　特別募集のご案内

＼＼新規加入・保障増額の機会を特別に追加／／
ぜひ、この機会に保障 死亡保障 医療保障 の点検を！
組合員用の掛金で利用できます。

団体生命共済（がんを含む）
入院は日帰りから。連続5日以上の成人病入院はさらに手厚く。
そして各種通院共済金、手術共済金、がん診断時の保障（上皮内がんも含む）や先進医療保障付き。もちろん死亡保障も。

組合員本人（～60歳） F 型 + 03 コースで、死亡 600 万円 + 入院日額 3,000 円の保障

税制適格年金 長期共済 ➡ 退職後の年金のための積み立てタイプの共済。
親子共済 ➡ 子どもの教育資金のための共済。

共済期間 2027年1月1日～ 各単組で取組んでいるセット共済満期日以降1年ごとの更新となります。

申込書類提出先 所属している組合
申込書提出期限 2026年11月30日（月）

幸せは ひとりじゃつくれない =力をあわせて「たすけあい」=

不明な点があれば、まずは組合にご連絡ください。
こくみん共済 coop 自治労共済推進本部 兵庫県支部
TEL：078-392-0821

契約にあたってはパンフレットをご覧ください。

こくみん共済 coop 自治労共済推進本部

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地(先)の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

全労済自治労共済本部資料より引用